

平成 30 年 7 月 吉日

山口祥義佐賀県知事様

唐津しゃんとする会（共同代表＝藤瀬憲一）

唐津市民会議（代表＝木村眞一郎）



原発事故に備えた「安全避難アプリ（仮称）」作成等のお願い

前略、私たちは玄海原発の近くに住むものとして原発の存在と稼働に大きな不安と不満を感じている市民グループです。県では事故に備えて今年 1 月「原子力防災の手引き」を全戸に配布されましたが、具体的問題点として果たして県民のどれほどが目を通してしているのでしょうか。また一読して内容を把握、記憶することができるのでしょうか。そしていざ事故のときに、すでに廃棄していたり、保管場所を忘れるケースも多いと想像できます。

そこで提案です。手引きの内容に加えて、事故内容の速報・風向きや風力と放射能到達予測、避難経路のマップ表示（大まかな風向きによって幾つかの推奨ルートの変更も）、交通渋滞や有効な迂回路などの道路情報などの速報、避難バスや避難船の集合場所などの公報、逃げ遅れや遠方へ避難できない人の一時避難案内などを、現在多くの人々が所有しているスマホへの開発を検討していただきたいのです。

同アプリにより、PAZ、UPZ 圏内のみならず周辺圏域の多くの人々がリアルタイムで変化していく事故内容と放射能汚染状況などを容易に把握しやすくなります。それが住民の精神的混乱を鎮め、避難の緊急性の有無や、避難方法や方向の選択など落ち着いて判断する手助けとなり、結果的に秩序ある避難行動にもつながり、無用な混乱や交通事故などの二次災害なども避けることにも役立つと思われます。なにとぞ「安全避難アプリ（仮称）」の開発と普及のご検討をお願い申し上げます。

また昨年 9 月 3、4 日に行われました原子力総合防災訓練ですが、玄海町のみらい学園の児童避難訓練では、われわれも見学しましたが多くの問題点が浮かび上がりました。中でも①校内にヨウ素剤が配備されていない②児童・生徒及び教職員らの防護服がない③避難用バスの不足・・・などを感じました。

上記は避難・防護対策の不備・不全の一部でしかありません。将来を担う子供たちにさえこうした最低限の避難用品や用具なども配備されないままに、玄海 3、4 号機が稼働していることに県民として大きな怒りと不安を感じています。緊急なる対策・対応をお願い申し上げます。